

(別記様式)

令和4年度 府立丹波支援学校亀岡分校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン） 【実施段階】

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>花ノ木医療福祉センターに入所している児童生徒を教育する学校であるという分校の特徴及び特別支援教育の考え方を踏まえ以下の4点について取り組む。</p> <p>①学校経営計画に基づき計画的・組織的・効率的な経営を推進する。</p> <p>②一人一人の教育的ニーズに応じた指導を推進する。</p> <p>③安心安全の教育活動を推進する。</p> <p>④保護者、花ノ木医療福祉センター、地域等関係する諸機関と円滑な連携を図る。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程を見直し、個別の指導計画、個別の教育支援計画の内容をわかりやすく整理することができた。 教科等合わせた指導「生活単元学習」の授業研究をし、三つの評価基準を意識した授業作りが定着してきた。 こまめに感染対策を見直し、コロナ禍における教育活動を工夫し安全に実施できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分校生にとっての段階別の目標や評価、道徳の学習の在り方について検討する。 Withコロナの時代に適した教育活動の計画や取り組み方を工夫していく。 先を見通し学校運営の課題を明確にし、課題解決の具体策に取り組む。 	<p>1 法令及び学習指導要領に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>2 個別の指導計画に基づき、個に応じた指導を進める。</p> <p>3 関係する諸機関と綿密に連携し、教育的支援を進める。</p> <p>4 健康と安心安全に留意した教育活動を進めるとともに、緊急事態に対応できるための危機管理体制のより一層の充実に努める。</p> <p>5 専門性を高め、個に応じた授業改善を行う。</p> <p>6 心身ともに健康を保つための取組を行う。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織運営	学校経営（運）	学校経営計画に基づく計画的、組織的、効率的な学校運営の推進	運営会議が中心となり、様々な情報を集約し、円滑に業務が進行するようリーダーシップをとる。	A A	<p>○方向性や課題等を共有することで、一致して進めることができた。</p> <p>○勤務時間の関係で昼に短時間、ヒヤリハット事象の分析や、看護師の体制等について会議できた。再発防止や医ケアの向上につながった。</p> <p>▲会議の時間確保が課題である。</p> <p>○自立活動の流れ図の作成に取り組んだ。今後、充実させていく。</p> <p>○教務部長会や研究会の資料を共有し、研修できた。</p> <p>▲学校教育目標や目指す児童生徒像について見直したが、更に研修をし、教育課程を細部まで検討する。</p>
	医療連携（医ケア）	花ノ木医療福祉センターとの綿密な連携 医療的ケアの質の向上	三者会議（管理職・養護教諭・学校看護師・〔担任〕）を定例化し、ヒヤリハット事象について原因を分析し対応策を学校全体で共有・確認する。	B B	
	保護者連携（教）	児童・生徒の実態に即した教育課程の編成・計画・実施	研究部と連携し、校内研等を行いながら児童・生徒の実態を理解し、アセスメントを検討できるようにする。	A B	
		教育課程検討委員会で定期的に教育課程についての検討や、次年度についての課題等を検討できるようにする。	B		

組織運営	保護者連携（教）	各分掌との円滑な連携 会議・行事等の計画・運営	年間計画を基にした行事日程の確認をし、早期に提案できるようにする。	A	B	<p>○コロナの影響で延期をすることが多々あったが、担任間や各担当、保護者等と早い目に調整して実施できた。 ▲後半、取組が詰まってきて、教材研究の日が少なくなった。</p> <p>○外部講師を招聘し、分校の歴史や実践を学びながら、分校が目指す方向性等について研修することができた。</p> <p>○日常的に基本的な感染対策を徹底し、概ね安全な教育活動を実践することができた。 ○花ノ木の感染対策と連携し、情報を共有しながら分校としての感染対策を検討することができた。 ▲2年間中止している行事等の再開に向けた感染対策について深めることができなかった。 ▲防犯対策の研修はできなかった。年間計画に入れて、年度当初に実施する。</p> <p>○3年ぶりに普通救命講習を受け、AEDの扱い方や心肺蘇生の手技について再確認できた。</p> <p>○個人情報情報を机上やプリンターに放置しないという意識が高まった。郵送時には内容物をダブルチェックして、誤送防止に努力できた。</p> <p>○児童生徒の様子や、各たよりを発信することができた。新HPへの移行作業は本校にお世話になり大変助かった。</p>
			家庭訪問を行うことも視野に入れながら、保護者に年に一度は来校してもらえるよう学習参観日の日程等を検討する。	B		
	課題の改善（研）	亀岡分校が抱える課題についての課題の整理と改善	亀岡分校の抱える問題をKJ法を使って抽出し課題を整理する。	A	A	
			整理できた課題に向けて新たな実践を進めていき、専門家のアドバイスを受けながら、よりよい教育環境・教育実践とは何かを研究する。	A		
	危機管理	〔感染対策〕 校内における感染予防対策の整備及び徹底（感）	基本的な感染予防対策の徹底を図る。さらに、花ノ木医療福祉センターと連携しながら、地域の感染状況に応じた的確な感染予防対策を整備し、全教職員へ周知徹底する。	A	A	
			感染予防の概念を教育活動の一環としてとらえ、様々な活動の中における感染予防対策を日常化し、学校行事の再開等に向けた検討を進める。	A		
		〔防災・不審者対策等〕 不審者侵入時の適切な対応方法の獲得（危）	警察署から講師を招き、講義と実技研修を受ける。	C	B	
			不審者対応のマニュアルを作成し、周知する。 (施錠の徹底等)	B		
	〔情報管理〕 個人情報の管理徹底（危）	緊急時の対応の基本を学ぶ。消防署の普通救命講習を受け、AEDの扱い方や心肺蘇生の手技を身につける。	A	B		
		文書等の受け渡しを確実にし、決められた場所での保管を徹底する。	A			
情報発信（情）	ホームページの作成と活用	日々の活動を保護者・地域の方に発信し、亀岡分校についての理解度を高める。	B	B		

教育課程	業務改善 (運)	心身ともに健康に働ける職場づくり	教育の質の向上に努めながら、勤務時間内の時間の活用（会議、教材研究等）を効率よく進行させる工夫を出し合い、働き方改革を進める。	B	B	○行事や会議等でとれない日もあったが、休憩時間を確保していく努力をした。 ○教職員のメンタル面での相談窓口を設定できなかった。
			スクールカウンセラー等を活用し、メンタル面での相談窓口を設定する。	C	C	
	学習指導 (教・研)	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業作りの研究	教務部と連携し、アドバイザーを招聘して教科等合わせた指導「生活単元学習」の研究授業及び授業改善等を行う。（昨年度から継続）	A	A	○外部講師を招聘し、生活単元学習の授業研究、音楽療法、自立活動について研修することができた。 ○花ノ木医療福祉センターのOT・PTを招聘して、体位変換や自立活動について研修をすることができた。 ▲研修を実施することができず、次年度に延期となった。 ○日々の申し送りを大切に、病棟との連携に努めた。特に、担連会では学校看護師が出席する機会を設定し、より専門的な連携ができた。 ▲室温の管理、個に合わせた学習環境づくりが徹底できなかった。 ▲保護者相談窓口の設置ができなかった。保護者との連携を深める機会を検討する。 ○京都府視覚支援センターから講師を招聘し、個の見え方、学習での見せ方等について研修することができた。 ○保健室ニュースを通して、保健学習（保健指導）の機会を設定できた。
			重度重複児童生徒にとっての教科「音楽」の授業作りについての研究会を実施する。	A		
	専門性の向上 (研・教課)	日々の実践の充実・向上	自立活動の目標を達成するために専門家からアドバイスを受け、日々の学習に生かす。	A	B	
			道徳の研修を行い、重度重複児童生徒にとっての道徳の授業の在り方を学び、日々の学習に生かす。	C		
	健康安全 (保)	児童生徒の保健管理の徹底	花ノ木医療福祉センターおよび保護者と連携し、個人の特性および健康状態を的確に把握する。さらに、早期に教職員間での情報共有を実現する。（日々の申し送り、病棟別連絡会、保護者相談窓口の設置等の充実を図る。）	B	B	
			関係部署と連携し、感染予防対策を含めた日常の疾病予防および校内衛生管理を徹底し、安全な学習環境を整備する。	B		
		個の特性に応じた保健教育の実現	「見え方」のアセスメントを進め、個の特性を把握するとともに、日常の教育活動に反映できる資料作りを進める。 保健ニュースの発行を通して、児童生徒の保健教育への興味関心を深める。	A	A	

	進路指導 (高)	キャリア教育の充実	卒業後の姿を見据えた教育活動を実施する。 卒業後の生活について、花ノ木医療福祉センターと連携する。	B	B	▲卒業生との交流ができず深められていない。
地域 連携	交流及び 共同教育 (交)	「地域に根ざし、地域と生きる学校」 を目指すために、交流及び共同学習の 充実	居住地校交流（近隣の学校）を充実させる。	A	A	○近隣の小学校との交流は、感染対策 の面から直接交流はできなかった が、リモート交流やプレゼントを通 じて間接的に交流を継続できた。 ○回数を重ねることで、リモートにも なれ、分校以外の友達と会えるよい 機会である。 ▲感染防止のため分校・花ノ木交流会 を再開できなかった。 ○直接またはリモートでの交流を重 ねる中で、互いを意識し、交流する ことができた。 ▲Withコロナにおいて、地域の人とふ れあう機会を検討する。
			学校内交流（本校）との交流を充実させる。	A		
	「地域に根ざし、地域と生きる学校」 を目指すために、新しい形の交流及び 共同学習の推進。	亀岡分校卒業生と在校生とを繋ぐ花ノ木医療福祉セ ンターとの交流及び共同学習を実施する。	B	B		
		本校訪問生と同学年の分校児童との交流及び共同学 習を実現する。	A			
		「地域に根ざし、地域と生きる学校」を目指すため 、地域の人・場所との交流の開拓をする。	B			

※ (運) → 運営会議 (教) → 教務部 (研) → 研究部 (保) → 保健部 (高) → 高等部分教室 (医ケア) → 医療的ケア担当者会
(教課) → 教育課程検討委員会 (感) → 感染対策検討委員会 (危) → 危機管理対策委員会 (情) → 情報担当
(交) → 交流及び共同教育担当

学校運営協議 会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・花ノ木医療福祉センターと連携し、感染対策を徹底することで児童生徒の健康と安全が守られている。 ・外部との接点を開拓する。
------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育目標・めざす児童生徒像・経営方針・重点課題の見直しをする。 ◎教科等合わせた指導「生活単元学習」や道徳について、研究授業及び授業改善等を行い、内容を充実させる。 ◎コロナ禍での感染対策の経験を生かし、安心安全を保ちながら、新しい形で学習や行事に取り組む。 ◎新たな地域とのつながり方を工夫し、活動範囲を広げる。 ◎働き方改革を意識し、特に教職員のメンタル面での健康的な職場づくりに努める。
-----------------------	---